MO ディスクドライブ

MO-CS シリーズ

ユーザーズマニュアル

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... **⚠注意 に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。**

次の動作マーク .... **次へ に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。**

文中の用語表記

- **本書では、Microsoft社 Windows Millennium EditionをWindowsMeと表記しています。**
- **本書では、Microsoft社 Windows98 Second EditionをWindows98SEと表記しています。**

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社インフォメーションセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭のOA機器としてお使いください。万一、一般OA機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。
- 一般OA機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■ 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

目 次

1 はじめに

本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

特長

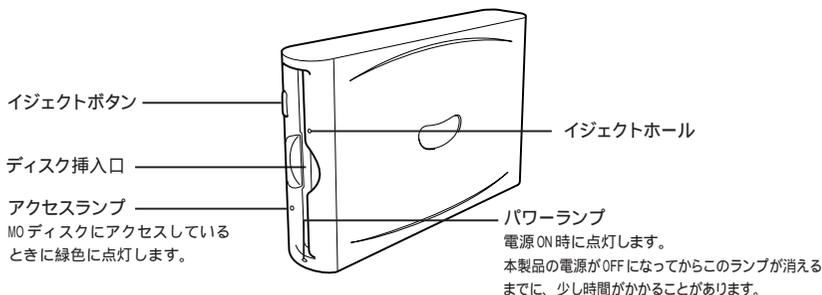
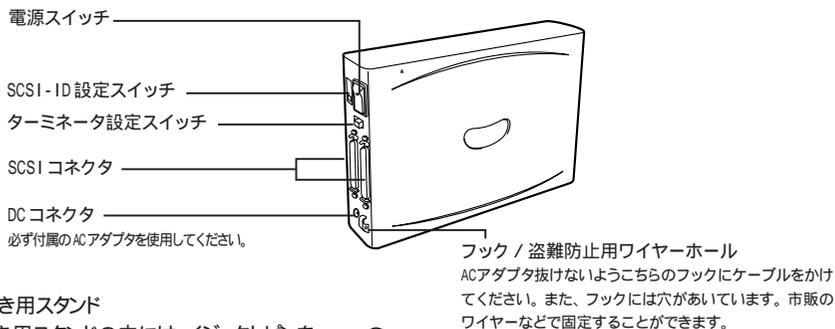
● ダイレクトオーバーライト方式（DOW）に対応
オーバーライト(OW)に対応したMOディスクで、ダイレクトオーバーライト方式による高速書き込みが可能です。

● ターミネータ機能内蔵
ターミネータ設定スイッチで、ターミネータ機能の有効／無効を切り替えられます。

● リアルキャッシュ搭載
「リアルキャッシュ(*)」の搭載により、WindowsMe/98SE/98/95でのMOディスクへの書き込み速度を大幅に向上させました。

* 書き込みのアルゴリズムを最適化することで、高速な書き込み処理を可能にします。

各部の名称

● 前面

● 背面

●縦置き用スタンド
縦置き用スタンドの中には、イジェクトピンを保管することができます。

縦置き用スタンド
イジェクトピン

付属品の確認は別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

2 セットアップ

本製品のセットアップ手順を説明しています。

セットアップのながれ

本製品のセットアップ手順は次のとおりです。

パソコン→周辺機器(本製品を含む)の順で電源スイッチをOFFにする
SCSIインターフェースがパソコンに取り付けられていないときは、
別途用意し取り付けてください。

▼

本製品のターミネータ、SCSI-IDの設定をする

▼

アダプタ、SCSIケーブルを接続する

▼

周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにする

▼

必要に応じてSCSIインターフェース、またはパソコンの設定をする

▼

Windows

▼

付属のユーティリティCDに収録されているユーティリティを必ずインストールしてください。

▼

Macintosh

▼

別売の弊社接続キット(DCK-ADAP)に付属のフォーマッタ、または市販のフォーマッタを必ずインストールしてください。

● PC98-NXシリーズを使用しているときは、CyberTrio-NXが「アドバンストモード」になっていることを確認してください。
アドバンストモードになっていないと、本製品のドライバをインストールできません。次の手順でアドバンストモードに変更してください。

・モードの確認方法
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータ の色で確認できます。

赤	アドバンストモード	設定を変更する必要はありません。
黄	ベーシックモード	アドバンストモードに設定を変更してください。
緑	キッズモード／カスタムモード	アドバンストモードに設定を変更してください。

・「CyberTrio-NX」のモードの変更方法
再起動後もアドバンストモードになるように設定を変更します。詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。
① ［スタート］－［プログラム(P)］－［CyberTrio-NX］－［Go To アドバンストモード］の順に選択します。アドバンストモードに切り替わります。
② ［スタート］－［プログラム(P)］－［CyberTrio-NX］－［CyberTrio-NX セットアップ］の順に選択します。
③ ［CyberTrio-NXのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。［アドバンストモード］を選択して［OK］をクリックします。

以上でアドバンストモードに設定されました。
本製品のドライバをインストールした後はアドバンストモード以外のモードも使用できます。任意のモードに変更してください。

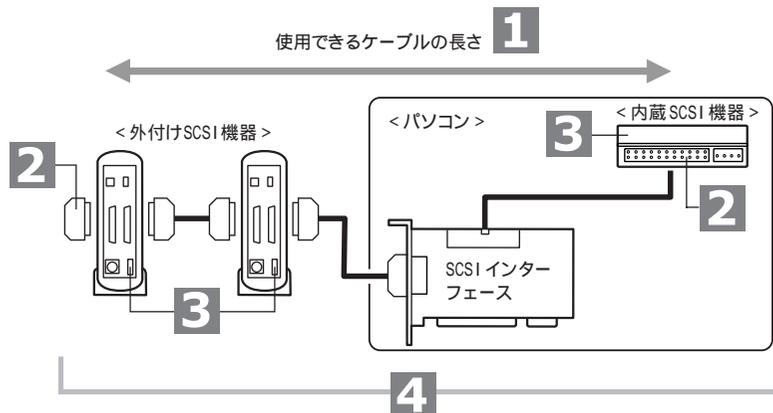
● インストールを実行する前に、本製品をパソコンに取り付けてください。

● すでに弊社製MOドライブを使用している環境からWindowsをアップグレードする場合は、事前にMOユーティリティをアンインストールしてください。【P19】

● WindowsXP/2000/NT4.0にMOユーティリティをインストールする場合は、必ず管理者として権限を持つ(administrator)ログオン名でログオンしてください。

● 起動しているアプリケーションはすべて終了してください。

SCSI機器増設時の注意

本製品やSCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の 1 ～ 4 で説明しています。必ずお読みください。

1 SCSIケーブルとコネクタ

● SCSIインターフェースの種類やUltra SCSI対応のSCSI機器を接続するかどうかによって、接続できるSCSI機器の台数と使用できるケーブルの長さに次のような制限があります。

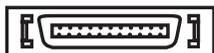
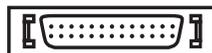
SCSI機器の種類	SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSI対応のSCSI機器を含む	Ultra SCSI(*2)	1～3台	3m以下
		4～7台	1.5m以下
SCSI-2対応のSCSI機器だけ	Ultra SCSI、SCSI-2	7台まで	6m以下

*1 「ケーブルの長さの合計」には、SCSI機器の内部に配線されている部分（10～20cm程度）も含まれます。

*2 Ultra SCSI対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が多くなるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。

● SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合した物を使用してください。

● SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。
付属のSCSIケーブルのコネクタは、両端ともD-subハーフピッチ50ピンです。パソコンやSCSIインターフェースボードによっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。

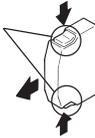
アンフェノールハーフピッチ50ピン

D-subハーフピッチ50ピン

● 接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。

● SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。

2 ターミネータ（終端抵抗）

● デイジーチェーン（複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態）の終端に接続するSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器を終端に接続した場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端（1台目用のコネクタ）に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。

本製品のターミネータ機能の設定は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

● SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランパ（2箇所）を押さえながら引き抜いてください。
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

3 SCSI-ID

● 同じSCSI-IDを複数のSCSI機器に割り当てないでください。ただし、複数のSCSIインターフェースを併用しているときは、異なるSCSIバス間で同じSCSI-IDがあっても構いません。

本製品のSCSI-IDの設定方法は別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

4 システム全般

●取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。

●取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。

● 大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（フロッピーディスクなど）に保存してください。

● パソコンおよび本製品は精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。

●取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。
・パソコンおよび周辺機器のマニュアル
・本製品および付属品
・SCSIインターフェースボード（カード）
※ Macintoshなど、パソコン本体にSCSIインターフェースが内蔵されている機種では不要です。

● Ultra SCSIインターフェースをお使いの方へ
MOディスクにアクセスするとシステムが停止するなど動作が不安定な場合は、次の方法で回避できることがあります。
・ Ultra SCSIインターフェースのSCSI BIOSで、本製品の同期転送を無効（非同期またはAsyc）に設定する
※ 設定方法は、Ultra SCSIインターフェースのマニュアルを参照してください。
複数のSCSI機器を接続してシステムの動作が不安定になる場合、次の方法で回避できることがあります。
・ Ultra SCSI対応機器（ハードディスクなど）をデイジーチェーンの終端、またはその近くに接続する
・ できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
・ 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする
以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

⚠注意 Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。

3 本製品の使いかた

使用時の注意

● 電源スイッチをONにするときは、必ず周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順でONにしてください。

● 電源スイッチをOFFにするときは、必ずパソコン→周辺機器(本製品含む)の順でOFFにしてください。

● MOディスクの初期化について
MOディスクは、使用する前に初期化(フォーマット)する必要があります。本製品にはMOディスクをフォーマットするためのWindows用プログラムが添付されています。【P10】

※ Macintoshの場合は、弊社製接続キット(DCK-ADAP)に付属のフォーマッタまたは市販のフォーマッタをインストールしてください。詳細は、フォーマッタに付属のマニュアルを参照してください。

● 本製品のアクセスランプが点灯しているときは、パソコンからアクセスしないでください。
本製品の準備ができていないため、アクセスエラーが発生します。

● Windows95でMOディスクにバックアップするときの注意
Windows95付属のバックアップツールを使用してMOディスクにバックアップするときは、バックアップするデータの総容量がMOディスクの容量を超えないようにしてください。MOディスクの容量を超えたデータはバックアップできません(これはバックアップツールの仕様によるものです)。

● MOディスクにラベルを貼るときは、指定の位置からはみ出さないようにしてください。
ドライブ内でラベルがはがれると、MOディスクが取り出せなくなることがあります。
取り出せなくなったときは無理に取り出そうとせず、そのまま弊社修理センターまで修理をご依頼ください。【P25】

● MOディスクにアクセスしているとき(アクセスランプが点灯しているとき)は、絶対にイジェクトボタンを押さないでください。
MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。

MOディスクの挿入

MOディスクのラベル面を左に向け、ディスク挿入口に挿入します。

正しく挿入されると、アクセスランプ(緑色)が3〜4秒間点灯します。

⚠注意 パソコンからMOディスクへのアクセスは、アクセスランプが消えてから行ってください。アクセスランプの点灯中は、MOディスクにアクセスできません。

MOディスクの取り出し

＜Windows搭載パソコンの場合＞

本製品のアクセスランプが消えていることを確認し、イジェクトボタンを押します。

MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

＜Macintoshの場合＞

デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップすれば、MOディスクが排出されます。本製品のイジェクトボタンは通常使用しません。

MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

⚠注意
- MOディスクにアクセスしているとき(アクセスランプが点灯しているとき)は、絶対にイジェクトボタンを押さないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。
- パワーランプが点灯していないときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクは排出されません。ケーブルの接続を確認し、本製品背面の電源スイッチを「ON」にして本製品のパワーランプが点灯してから、イジェクトボタンを押してください。
  それでもMOディスクを取り出せないときは、「MOディスクが取り出せないとき」【P9】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

MOディスクが取り出せないとき

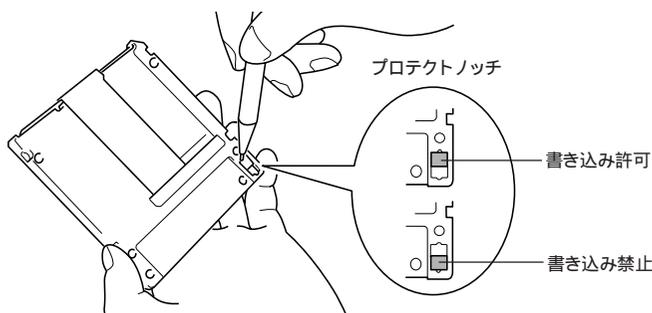
パワーランプが消灯しているときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクを排出できません。その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

⚠注意 この操作は、必ずパソコン本体の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

MOディスクを書き込み禁止にするとき

MOディスクに記録したデータを誤って消去してしまわないように、MOディスクへの書き込みを禁止できます。

ボールペンなどを使って、MOディスクの背面にある「プロテクトノッチ」を書き込み禁止の位置に移動させてください。

再度データを書き込むときは、プロテクトノッチを書き込み許可の位置に移動させます。

4 MOディスクのフォーマット

本製品にセットしたMOディスクをフォーマットする方法を説明します。

※ フォーマットとは、MOディスクなどの記憶メディアをパソコンで使用できるように処理（初期化）することです。

フォーマット時の注意

他のアプリケーション（エクスプローラなど）が起動しているときは終了してください。

● MOディスクに記載されている容量は、1MB＝1,000²byteで計算されています。
ただし、Windows上でフォーマットするときやプロパティでMOディスクの容量を確認するときは、1MB＝1,024²byteで計算されるため、表示される容量が異なります。

● MOディスクによっては、フォーマットに数十分かかるものがあります。
本製品の動作が停止しているように思われても、アクセスランプが点灯または点滅している間はフォーマットしています。そのままフォーマットが終わるまで待ってください。

Windows搭載パソコンでのフォーマット

Windowsには標準でフォーマッタが添付されていますが、異なるOS間でMOディスクを共有して使用する場合に互換性による問題が生じることがあります。MOディスクをフォーマットするときは、インストールされたフォーマッタ「MOフォーマット」を使用してください。
ここでは「MOフォーマット」の使いかたや使用上の注意について説明しています。

MOフォーマットに関する注意

● MOフォーマットを使用すると、MOディスク内のデータは全て消去されます。大切なデータを必ずバックアップしてからフォーマットしてください。

● MOフォーマットではパーティションを作成できません。また、リムーバブルメディア以外（ハードディスクなど）のフォーマットもできません。

● 本製品以外でのMOフォーマットの使用は、弊社では保証しておりません。

● FAT32フォーマットされたディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95（4.00.950 B/4.00.950 C）、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

● MOフォーマットの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOフォーマットを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。

● WindowsXP/2000をお使いの方へ
- WindowsXP/2000のフォーマット機能でフォーマットすれば、NTFS形式でMOディスクをフォーマットできますが、MOディスクを想定したフォーマット形式でないため、FAT16またはFAT32でフォーマットすることをおすすめします。
- MOフォーマットでは、NTFSのフォーマットはできません。
- MOフォーマットでフォーマットされたMOディスクをWindowsXP/2000のフォーマット機能で再フォーマットする場合、いったんNTFS形式でフォーマットしてから希望のフォーマット形式でフォーマットしてください。
- NTFS形式フォーマットのMOディスクをWindowsXP/2000で使用すると、そのMOディスクはWindowsXP/2000でしか読み書きできなくなります。
- NTFS形式フォーマットのMOディスクを書込み禁止にした場合、書き込みだけでなく読み出しもできません。
- Ver.6.10以前のバージョン（*）のAplix社製「WinCDR」（CD－R/RWライティングソフトウェア）がインストールされている環境では、MOフォーマッタが正常に動作しません。株式会社アプリックスのホームページ（http://www.aplix.co.jp/）から、最新ドライバ（aplix2k.sys）をダウンロードし、インストールしてください。

  *:WinCDRを起動し、メニューから、［ヘルプ］-［バージョン情報］を選択することにより確認できます。

MO フォーマットの起動と終了

・起動方法 ..... [スタート]－[プログラム(P)]－[MO ユーティリティ]－[MOフォーマット]を選択してください。

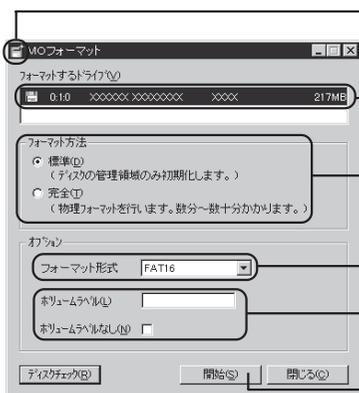
・終了方法 ..... MOフォーマットの[閉じる(C)]をクリックしてください。

フォーマット手順

次の手順でMOディスクをフォーマットします。

⚠注意
- フォーマットすると、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか必ず確認してください。
- フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチを一切操作しないでください。
- MOフォーマットを起動する前に、本製品をパソコンに接続しておいてください。
- 誤って他のMOドライブを操作してしまわないために、MOドライブは1台だけ接続することをおすすめします。

1 フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入し、MOフォーマットを起動します。
【P11「MOフォーマットの起動と終了」】

2

ここをクリックして［バージョン情報(A)］を選択すると、MOフォーマットのバージョン情報が表示されます。

① フォーマットするMOドライブ（本製品）を選択します。

② フォーマット方法を選択します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ 必要に応じてボリュームラベルを入力します（最大半角英字11文字）。

⑤［開始(S)］をクリックします。

・ドライブ情報 ....

・フォーマット方法 .... [標準]： 論理フォーマットのみ行います（通常はこちらを選択します）。
[完全]： 物理フォーマットを行い、その後に論理フォーマットを行います。

・フォーマット形式 .... [FAT16]と[FAT32]が選択できます。
※ FAT32フォーマットされたMOディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

・[ディスクチェック] .... 表示内容を更新します。MOフォーマットを起動した後にMOディスクを挿入した場合や、MOディスクを入れ替えた場合にクリックします。

次のページへ続く

4
MOディスクのフォーマット

フォーマット方法で[完全]を選択している場合

「物理フォーマットは数分から数十分を要します。(以下略)」というメッセージが表示されます。物理フォーマットしてもよければ、[はい(Y)]をクリックします。

物理フォーマット中は経過時間が表示されます。

⚠注意 お使いの環境によっては、経過時間の表示が進まないことがあります。本製品のアクセスランプが点灯していれば物理フォーマットは動作していますので、完了のメッセージが表示されるまでお待ちください。

3 「ディスクの内容が全て消去されます。フォーマットを行いますか?」と表示されたら、[はい(Y)]をクリックします。

⚠注意 フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチ、SCSIケーブル、ACアダプタの操作を一切行わないでください。

4 「フォーマットが終了しました。ディスクを排出します」と表示されたら、[OK]をクリックします。

MOディスクが排出されます。

以上でフォーマットは完了です。

WindowsMe/98SE/98/95でPCIバス用SCSIインターフェースボードを使用している場合

PCIバス用SCSIインターフェースボードを使用していて、ライトキャッシュを有効(ON)にするとエラーが発生する場合は、次の手順で設定してください。

1 [スタート]－[設定(S)]－[コントロール パネル(C)]と選択します。

2 [システム]アイコンをダブルクリックします。

3 [デバイス マネージャ]タブをクリックします。

4 [ディスク ドライブ]をダブルクリックします。

5 表示されたドライブから本製品のデバイス名(型番)をダブルクリックします。
ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。製品によって型番は異なります。
例: KONICA OMD-XXXX

6 [設定]タブをクリックします。

7 [切断]のチェックボックスをクリックしてチェックマーク(✓)を外し、[OK]をクリックします。

8 [デバイス マネージャ]画面に戻ったら、[OK]をクリックします。

9 以降は表示されるメッセージに従ってパソコンを再起動します。

Macintoshでのフォーマット

別売の弊社製接続キット(DCK-ADAP)に付属のフォーマッタ、または市販のフォーマッタを必ずインストールしてください。フォーマット手順はフォーマッタのヘルプまたはマニュアルを参照ください。

5 付録

MOディスク間のコピー（WindowsMe/98SE/98/95）

本製品付属の「MOコピー」を使用すれば、1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーが簡単にできます。

- MOコピーは、他のアプリケーション（エクスプローラなど）をすべて終了してから操作してください。
- 誤ってコピー元のMOディスクを上書きしないよう、コピー元のMOディスクは書き込み禁止にしておくことをおすすめします。【P9】

制限事項

● コピーは同じ容量のMOディスク間でだけ行えます。コピー元とコピー先のMOディスクの容量が異なる場合はコピーできません。
例）・コピーできる
640MBのMOディスク→640MBのMOディスク
・コピーできない
230MBのMOディスク→640MBのMOディスク

メモ Windows標準のディスクコピー機能は、MOディスク間のコピーには対応していません。

● ハードディスクドライブを経由してデータをコピーするため、コピーするMOディスクの容量以上の空き容量が1台のハードディスクに必要です。

● ファイルフォーマットがFAT16形式のMOディスクを使用している場合にだけ、高速でコピーできます。

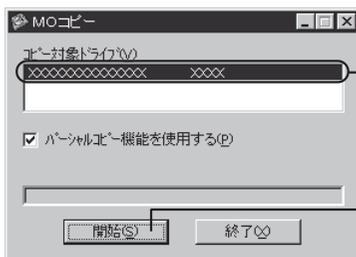
● MOコピーの起動中は、エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見ないでください。
見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOコピーを終了し、再度エクスプローラや［マイ コンピュータ］からMOディスクの内容を見てください。

● 本製品以外でのMOコピーの使用は、弊社では保証しておりません。

● MOコピーはWindowsMe/98SE/98/95用です。それ以外のOSではインストールされません。

コピー手順

1 ［スタート］－［プログラム(P)］－［MO ユーティリティ］－［MOコピー］を選択します。

2

① コピーに使用するMOドライブ（本製品）を選択します。

② ［開始(S)］をクリックします。

次のページへ続く

メモ　パーシャルコピー機能について

［パーシャルコピー機能を使用する(P)］のチェックマーク（✓）を付けた状態（初期状態）で［開始(S)］をクリックすると、ファイルデータだけがコピーされます。そのため、コピーにかかる時間が短くなります。チェックマークを外した場合、コピー元のMOディスク内にあるすべての情報がコピーされます。

> パーシャルコピー機能は、次のMOディスクをコピー元としたときに使用できます。
>
> ・本製品付属の「MOフォーマット」でFAT16形式フォーマットしたMOディスク
>
> 次のMOディスクをコピー元にした場合、パーシャルコピーはできませんので、チェックマークは外してください。
>
> ・「MOフォーマット」以外のフォーマッタでフォーマットされたMOディスク
> ・FAT16形式以外のフォーマット形式（FAT32やNTFSなど）のMOディスク
> ・Macintoshフォーマット（HFSなど）のMOディスク

3　コピー元のMOディスクを本製品にセットします。

4　［OK］をクリックします。

5　コピー先のMOディスクを本製品にセットします。

自動的にMOディスクが検出され、ファイルがコピーされます。

6

同じ内容をさらに別のMOディスクにコピーするときは［はい(Y)］をクリックします。MOコピーを終了するときは［いいえ(N)］をクリックします。

以上でコピーは完了です。

MO ディスク内のファイルの削除（WindowsMe/98SE/98/95）

本製品付属の「ダストシュート」を使用すれば、MO ディスク内のファイルを完全に削除できます。ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでも復旧できないため、機密データの削除に最適です。

メモ　Windows上の操作で削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOSのUndeleteコマンドで復旧できることがあります。

制限事項

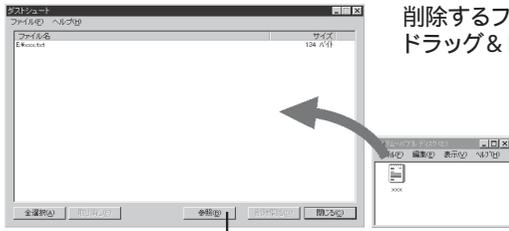
- ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティや DOS の Undelete コマンドでは復旧できません。
  必要なデータは絶対にダストシュートでは削除しないでください。
- フォルダを削除することはできません。
- ダストシュートで削除できるのはMO ディスク内のファイルだけです。
  ハードディスクドライブなど他のメディア内のファイルは削除できません。
- ダストシュートによるデータの削除後もファイル名の痕跡だけは残ります。
  ファイルの実体は残りません。
- ダストシュートはファイルフォーマットがFAT16/32形式のMO ディスクの場合にだけ使用できます。
- 本製品以外でのダストシュートの使用は、弊社では保証しておりません。
- ダストシュートはWindowsMe/98SE/98/95用です。
  それ以外のOSではインストールされません。

削除手順

1　[スタート] – [プログラム(P)] – [MO ユーティリティ] – [ダストシュート] を選択します。

デスクトップ画面上の [ダストシュート] アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2　削除したいファイルの入ったMO ディスクを本製品に挿入します。

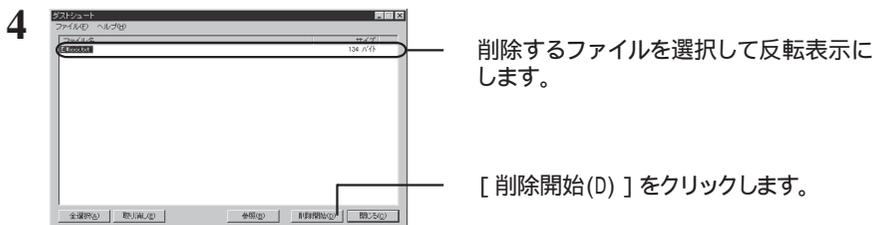
3

削除するファイルをダストシュートの画面にドラッグ＆ドロップします。

［参照(B)］をクリックして、削除するファイルを選択することもできます。

次のページへ続く

5　付録

4

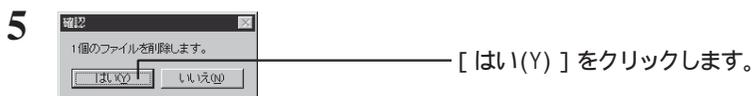
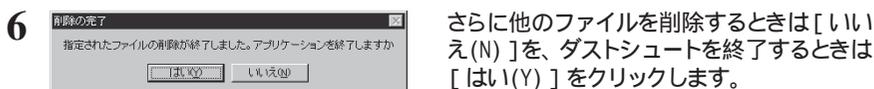
① 削除するファイルを選択して反転表示にします。

② ［削除開始(D)］をクリックします。

複数のファイルを削除するときは、［全選択(A)］をクリックしてすべてのファイルを選択してから［削除開始(D)］をクリックします。また、<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを押しながらマウスをクリックして、複数のファイルを選択することもできます。

5

［はい(Y)］をクリックします。

ファイルが削除されます。

6

さらに他のファイルを削除するときは［いいえ(N)］を、ダストシュートを終了するときは［はい(Y)］をクリックします。

以上でファイルの削除は完了です。

メモ 上記の手順以外にも、次の方法でダストシュートによるファイルの削除ができます。

※ 次の方法の場合、削除するファイルが下の方の階層にあると、同時に複数のファイルを削除できないことがあります。その場合は、複数回に分けてファイルを削除してください。

＜方法1＞

① エクスプローラや［マイ コンピュータ］でMOディスクの内容を表示し、削除したいファイルを右クリックします。
② 表示されたメニューから［送る(N)］－［ダストシュート］を選択します。
③ 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、［はい(Y)］をクリックします。
④ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。

＜方法2＞

① デスクトップ画面上の［ダストシュート］アイコンに、MOディスク内の削除したいファイルをドラッグ&ドロップします。
② 「...個のファイルを削除します」と表示されたら、［はい(Y)］をクリックします。
③ 「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。

メディアIDについて

本製品はメディアID付きMOディスクに対応しています。ここではメディアIDについて説明します。

⚠注意 WindowsXP/95/NT4.0およびMacOSでは、メディアIDに対応していません。

メディアIDとは

固有の番号(メディアID)付きのMOディスクを使用することで、ホームページなどで配信されている音楽・映像データなど、著作権を保護したまま保存する機能です(メディアIDが付いていないMOディスクでは、著作権保護されたデータを保存することはできません)。

またメディアID付きMOディスクは、著作権に関係の無いデータも従来通り保存することができます。

メディアID付きMOディスクには マークがついています。

メモ 詳しくは、弊社ホームページ(http://buffalo.melcoinc.co.jp/pd/mediaid/index.html)のメディアIDについての解説ページを参照ください。

メディアIDドライバのインストール

メディアID付きMOディスクを使用して、著作権が保護してあるデータを保存するには、あらかじめメディアIDのドライバをインストールする必要があります。次の手順でインストールしてください。

1 付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。

※MOユーティリティのインストール時にメディアIDドライバもインストールすることができます。
Windows2000では必ず本製品をパソコンに接続してからインストールしてください。
接続していないとインストールができません

2 ユーティリティCD内の アイコン(SETUP.exe)をダブルクリックしてください。

3 以降は画面の指示に従ってインストールしてください。

以上でインストールは完了です。

5
付録

メディア ID 対応 MO ディスクへの保存

メディアIDに対応したソフトウェアを使用して保存します。ここではWindows Media Player 7を例に説明します。Windows Media Player 7は、Microsoft社のホームページから無償ダウンロードできます。

メモ MOディスクに保存したいデータ(音楽など)をホームページからハードディスクにダウンロードしておいてください。ダウンロードはホームページの指示に従ってライセンスの発行・支払い手続きを行ってください。

1 メディア ID 付き MO ディスク(フォーマット済み)を本製品にセットします。

2 Windows Medeia Player 7を起動します。

※起動する前にMO ディスクを必ず本製品にセットしてください。

3 [ポータブル デバイス]をクリックします。

4 [デバイス上の音楽]から本製品(MOドライブ)を選択します。

5 [コピーする音楽]からコピーしたい項目をクリックし、チェックマークをつけます。

6 [音楽のコピー]をクリックします。

※MO ディスクへコピーできる回数、コピーしたMO ディスクから再生できる期間などは、データ元の販売条件によって異なります。

※データ元の販売条件によってはメディア ID 付きMO ディスクでもコピーできないことがあります。

以上でMOディスクへの保存は完了です。

アンインストール

Windows搭載パソコンで本製品付属のユーティリティやドライバが不要になったときは、次の手順でアンインストールしてください。

1 [スタート]－[プログラム(P)]－[MO ユーティリティ]－「アンインストーラ]の順に選択します。

2 以降は画面の指示に従って操作します。

困ったときは

本製品が認識されない（ドライブアイコンが表示されない）

- SCSI機器のSCSI-IDが重複していないか確認してください。重複している場合は、重複しないようにSCSI-IDを設定し直してください。
- SCSI-IDが0から連続して設定されているか確認してください。
  ※ 本製品だけを接続しているときは、SCSI-IDを0に設定してください。
- SCSIインターフェースケーブルやコネクタが確実に接続されているか確認してください。

⚠注意 SCSIインターフェースケーブルやコネクタの接続を確認するときは、必ずパソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにしてください。

「ファイルシステムエラーです」と表示される

「MOフォーマット」や「MOコピー」を起動しているときにエクスプローラや「マイ コンピュータ」からMOディスクの内容を見ようとすると、上記のエラーが表示されます。

その場合は「MOフォーマット」や「MOコピー」を終了してから、再度エクスプローラや「マイ コンピュータ」からMOディスクの内容を見てください。

本製品の動作が不安定（読み込み／書き込み時にエラーが出る）

- SCSIインターフェースケーブルやターミネータが確実に接続されているか確認してください。

⚠注意 SCSIインターフェースケーブルやターミネータの接続を確認するときは、必ずパソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにしてください。

- SCSIインターフェースケーブルのインピーダンス値が統一されているか確認してください。SCSI機器の接続には、付属のSCSIインターフェースケーブルまたは、別売の弊社製SCSIインターフェースケーブルを使用してください。いずれもハイインピーダンスのケーブルです。
- Ultra SCSIインターフェースボードを使用している場合、SCSI BIOSで同期転送を無効(非同期またはAsyc)に設定することで改善することがあります。
  設定方法はUltra SCSIインターフェースボードのマニュアルを参照してください。

5
付録

WindowsMe/98SE/98/95で［リムーバブル ディスク］のアイコンが複数表示される

本製品の［予約ドライブ文字］が複数のドライブ文字に設定されています。次の手順で1つのドライブ文字に設定してください。

① デスクトップ画面の［マイ コンピュータ］アイコンを右クリックします。表示されたメニューから［プロパティ(R)］を選択します。
② ［デバイス マネージャ］タブをクリックします。［ディスクドライブ］の文字をダブルクリックします。
③ 表示されたドライブから本製品のデバイス名（*）をダブルクリックします。
*ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。製品によって型番は異なります。
④ ［設定］タブをクリックします。
⑤ ［開始ドライブ(文字)］と［終了ドライブ(文字)］の▼をクリックし、表示されたドライブ文字から1つ選択します。
※ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］は同じドライブ名にしてください。

WindowsMe/98SE/98/95で今まで使用していたZipドライブが表示されない

次の手順でZipドライブの［予約ドライブ文字］を設定してください。

① デスクトップ画面の［マイ コンピュータ］アイコンを右クリックします。表示されたメニューから［プロパティ(R)］を選択します。
② ［デバイス マネージャ］タブをクリックします。［ディスクドライブ］の文字をダブルクリックします。
③ 表示されたドライブからZipドライブの型番（*）をダブルクリックします。
* ドライブユニットの製造元の型番が表示されます。Zipドライブによって型番は異なります。
④ ［設定］タブをクリックします。
⑤ ［開始ドライブ(文字)］と［終了ドライブ(文字)］の▼をクリックし、表示されたドライブ文字から1つ選択します。
※ ［開始ドライブ（文字）］と［終了ドライブ（文字）］は同じドライブ名にしてください。

MOディスクを入れ替えるとWindows95が不安定になる

パソコンを再起動し、本製品の電源を入れ直してください。

WindowsNT4.0で640MB以上のMOディスクが使用できない

PC-9821/9801シリーズでWindowsNT4.0を使用しているときは、ServicePack3以降がインストールされていないと、640MB以上のMOディスクを使用できません。必ずServicePack3以降をインストールした環境で使用してください。

パソコンが起動できない（PC-9821/9801シリーズのみ）

本製品に未フォーマットのMOディスクや、システムの入っていないMOディスクを挿入しているときは、MOディスクを取り出して再起動してください。

MOディスクに書き込めない

MOディスクのプロテクトノッチが書き込み禁止になっていないか確認してください。プロテクトノッチを書き込み許可の位置にしてください。

アクセス時に「ドライブの準備ができていません」というメッセージが表示される

MOディスクが正しく本製品に挿入されているか確認してください。

MOディスクの挿入後、アクセスランプが点灯している間はドライブは準備中です。アクセスランプが消えてから操作を行ってください。

WindowsNT4.0 で IFC-DC(弊社製 SCSI インターフェースカード)をお使いの方へ

WindowsNT4.0使用時はユーティリティCDのユーティリティ(MOフォーマットなど)を使用できません。

※フォーマット済みの MO ディスクを使用してください。

WindowsNT4.0でIFC-UP(弊社製SCSIインターフェースボード)を以前からお使いの方へ

IFC-UPのドライバは、バージョン1.01(ドライバディスクのボリュームラベルが[IFC_UPV101]と表示されます)以降をお使いください。ドライバディスクのボリュームラベルはドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、フロッピーディスクのプロパティを表示させることで確認できます。

最新のドライバはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)からダウンロードすることができます。

Windows98/95 で IFC-DP(弊社製 SCSI インターフェースボード)を以前からお使いの方へ

IFC-DPのドライバが古い場合、MOディスクドライブの動作がWindows98/95で不安定になることがあります。本書に記載の手順でドライバのバージョンを確認してください。

① デスクトップ画面左上の[ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ]アイコンを右クリックします。

② 表示されたメニューから[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ(R)]をクリックします。

③

④ [ﾄﾞﾗｲﾊﾞ]タブをクリックし、表示されているバージョンまたは日付を確認します。
次のいずれかに該当する場合は、IFC-DPのドライバをアップデートしてください。

- バージョンが [1.20] より前のとき
- 日付が [1-22-1998] より前のとき

最新のドライバはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)からダウンロードすることができます。

5
付録

MO ディスクが取り出せない

WindowsXP/2000

Windowsの書き込みキャッシュが有効のとき、OSの仕様によりイジェクトボタンを押してもMOディスクは排出されません。このようなときは、MOドライブのアイコンを右クリックし、[取り出し]をクリックしてください。MOディスクが排出されます。

Macintosh

OS終了時に通常は自動的にMOディスクが排出されますが、お使いのパソコンによっては排出されないことがあります。このようなときは付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

空き容量はあるが MO ディスクにファイルをコピーできない

FAT16形式でフォーマットされたMOディスクの場合、ルートディレクトリに記録できるファイルの数には上限があります（ロングファイル名のファイルがない場合に最大512個）。

そのため、MOディスクに空き容量があるにもかかわらずファイルがコピーできない場合は、ルートディレクトリにあるファイルを1つ削除してフォルダを作成してください。その後、そのフォルダ内にファイルをコピーしてください。

特定のソフトウェアで本製品が使用できない

パソコンに標準搭載されているドライブ専用に作られたソフトウェア（※）上で、本製品を使用できないことがあります。

その場合はパソコンに標準搭載のドライブ（ハードディスクなど）を使用するか、他のソフトウェアを使用してください。

※ソフトウェアの仕様はソフトウェアメーカ（プリインストールソフトではパソコンメーカの場合があります）にご確認ください。

Macintosh で MO ディスクをセットしてもすぐに排出される

メディアを入れたままのカードリーダー（弊社製MCRなど）と併用した場合、本製品に未フォーマットのMOディスクを挿入するとすぐに排出され、MOディスクをフォーマットできません。

カードリーダー内のメディアを取り出してからフォーマットしてください。

動作環境

温度　5～35℃

湿度　20～80％(結露なきこと)

消費電力

MOドライブ（本体）に記載

※最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ
(http://www.melcoinc.co.jp/)をご参照ください。

5

付録

■ 保証書について

本製品を梱包している箱には、保証書と本製品の修理についての条件を定めた約款が記載されております。お客様が無償修理を要求する場合に必要となりますので、大切に保管してください。

■ ユーザー登録について

弊社ホームページ(https://online.melcoinc.co.jp/user_t/index.html)にて、ユーザー登録できます。

※ ユーザー登録時、製品シリアルNo.の入力が必要となります。製品シリアルNo.は、製品本体にシールで貼り付けられていますので、パソコンに取り付ける前にご確認ください。
※ ユーザー登録された方には、弊社製品に関する情報をお届けします。
※ ユーザー登録後に製品を譲渡した場合、ユーザー登録は変更できません。
※ 本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方でなければ受けられません。

■ 修理について

製品をお送りいただく前に、マニュアルを参照して設定や接続が正しいかを再度ご確認ください。正しく接続や設定をしても改善されない場合は、修理票と保証書の原本に必要事項をご記入の上、製品と一緒にお送りください。修理票は、弊社ホームページにてダウンロード可能です。修理票の添付が困難な場合は、以下の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付して製品をお送りください。

① 返送先 ［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
② 平日昼間の連絡先
［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
③ 修理対象のメルコ製品名
④ 弊社製品ハードウェア シリアルナンバー
⑤ 弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー
⑥ 具体的な症状/エラーメッセージ
⑦ 発生状況 ［始めから/ある日突然/環境を変えたら］
⑧ 発生頻度 ［必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他］
⑨ コンピュータ ［本体メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑩ ハードディスク ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑪ ディスプレイ ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑫ その他周辺機器 ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑬ OS(オペレーティング・システム)
［ソフト名/メーカ名/バージョン］
⑭ 製品以外の添付品 ［付属ソフトなど］

製品送付先	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 株式会社メルコ　修理センター宛
電話番号	052-619-1289

※ ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは承っておりません。製品に関するお問い合わせはインフォメーションセンターへお願いします。
※ 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断り致します。
※ 送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社は責任を負いかねますので、輸送会社に別途保証をしていただくなどの措置を取ってください。
※ 修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。
※ ハードディスクなどの記憶装置をお送りいただいた場合、その記憶装置はフォーマット致します。また、記憶装置を修理する場合は、データが記憶されているディスク部分を交換することがございます。お送りいただく際、必要なデータは必ず事前にバックアップを作成しておいてください。
※ 修理期間は、製品の到着後７日程度（弊社営業日数）を予定しております。

MO-CSシリーズ ユーザーズマニュアル

2002年6月10日 第2版発行
発行　　株式会社メルコ

弊社製品の情報は次の方法で入手できます

インターネット

http://www.melcoinc.co.jp/

製品サポート

インフォメーションセンター

〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15　株式会社メルコ ハイテクセンター内

本製品のサポートは下記で承っております。

ストレージ製品専用ダイヤル

<東　京> 03-5326-3753

月～金 9:30～12:00/13:00～19:00　※祝日を除く
土/祝 9:30～12:00/13:00～17:00　※年末年始と日曜日を除く

<名古屋> 052-619-1188

月～金 9:30～17:00　※祝日を除く

※ 事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認しておいてください。
- コンピュータ名と使用OS
- 本製品の製品名とシリアルナンバー
- 現象（具体的なエラーメッセージなど）

※ 受付時間や電話番号などは、変更されることがあります。最新の内容は弊社ホームページでご確認ください。